

P-バスターズ通信



~~今回は『母豚の免疫安定化』について~~

母豚が PRRS ウイルスに感染していると、繁殖障害や哺乳豚へのウイルス感染が起こる可能性があります。そのため母豚の免疫安定化が PRRS をコントロールしていくにあたって、まず行わなくてはならない対策です。繁殖障害がなくなるとともに、子豚への若齢での感染を抑えることができ、発育不良や事故率の低減が期待できます。

1 母豚の免疫安定化について

(1) 母豚の免疫安定化とは

母豚の免疫安定化とは、全ての母豚が免疫を持ちウイルスを排せつしない状態にすることです。

	母豚の繁殖障害	垂直感染	肉豚のウイルス感染	抗体
ステージⅠ	あり	あり	あり	陽性
ステージⅡ	なし	あり	あり	陽性
ステージⅢ	なし	なし	あり	陽性
ステージⅣ	なし	なし	なし	陽性
ステージⅤ	なし	なし	なし	陰性

ステージⅠ・ⅡからⅢへステップアップする為に、母豚の免疫安定化が必要です。



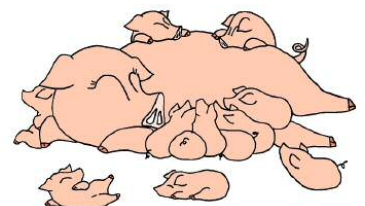
(2) 免疫安定化のメリット

① 母豚間における水平感染を抑制

PRRS ウイルスによる繁殖障害がある場合は、改善が期待できます。

② 母豚から子豚への垂直感染を抑制

妊娠中に胎盤を介した感染がなくなり、ウイルスを持たない子豚の生産ができ、哺乳～離乳の発育不良や事故率の低減が期待できます。



2 母豚の免疫安定化対策の例（ステージⅠ～Ⅲの農場）

（1）候補豚の適切な免疫付与（自農場のウイルス株に馴致^{じゅんち}することが重要です）

① 導入豚の場合

隔離観察し、隔離舎または隔離豚房において馴致^{じゅんち}しましょう。馴致^{じゅんち}期間中はウイルスを排せつするため、まん延防止には十分に注意してください。

② 自家育成の場合

肉豚と同じ豚舎で飼育されていれば、育成期に感染し、種付け前には安定化している場合が多いです。ただし、清浄化が進み感染が肥育期後半となった農場や、感染率が低下してきている農場では繁殖豚舎に移動する時期が感染直後となる場合があるので注意が必要となります。

③ ワクチン接種による場合

導入直後とその1か月後に2回目のワクチンを接種してから繁殖利用しましょう。

（2）候補豚がウイルス排泄をしていないことを確認

馴致^{じゅんち}後には、抗体及び遺伝子検査で抗体が陽性であり、かつウイルスの排せつがないこと（PCRマイナス）を確認後、母豚群に導入してください。

（3）母豚への免疫付与

① 自農場株による免疫安定を行う場合

免疫は長く持続しますが、高産歴母豚を利用する場合は免疫切れに注意してください。

② ワクチンによる免疫安定を行う場合

効果の持続は3か月程度である事を考慮し、3か月ごとの一斉接種^{*}または繁殖サイクルごとに接種を行ってください。

^{*}用法外のため、獣医師の指示が必要

（4）検査による免疫安定化の確認

哺乳豚の遺伝子検査、母豚の抗体・遺伝子検査を行うことで、免疫安定化を確認できます。

PRRS 対策等については、農場毎に違いますので、下記の担当者にご相談ください。

家畜保健衛生所 PRRS 清浄化対策チーム担当者

西部家畜保健衛生所（杉本・鈴木） Tel:0569-72-0344

尾張支所（犬養） Tel:0568-81-1874

中央家畜保健衛生所（井藤・清水） Tel:0564-51-5183

豊田加茂支所（高橋） Tel:0565-32-0459

東部家畜保健衛生所（鈴木・杉浦） Tel:0532-45-1141

新城設楽支所（水野） Tel:0536-22-0549



お知らせ：第4号は3月頃に発信予定です。